

企業ニュース

会員の受注増、成果出始める

K2 コーティング・マスターズ

ピアレックス・テクノロジーズの光触媒フッ素コーティング材の責任施工組織「K2 コーティング・マスターズ」の活動が本格化してきた。会員の実益に直結する会を目指して2年前に発足、受注アップや仕事の領域拡大など具体的な成果が出始めてきた。6月24日、都内で第8回目の全体会議を開催、「サイディンググラデーション工法」など、新たな弾（タマ）を紹介した。

会員は現在31社。住宅塗り替えの元請け、ハウスメーカーの協力会社、野丁場主体の塗装会社、サイディング施工、造園業など多彩な顔ぶれ。いずれも、ピアレックス社固有のフッ素樹脂光触媒技術が他社との差別化、工事の付加価値化につながるとの誘引からK2会に加盟。特に、施工直後から親水・防汚機能を発揮する同技術ならではのプレゼン手法は施主へのアピール度が絶大で、会員の受注増に直結している。会議では、会員がプレゼンの方法をロールプレーイングし、ノウハウを共有しあった。

加えてピアレックス社独自のノウハウを会員に積極的に提供。その1つが打ち放しコンクリート物件の改修工法「G-PFシステム」だ。経年劣化や汚れなど意匠が損なわれたコンクリート打ち放しの建物を新設時の風合いに蘇らせる特殊工法。フッ素樹脂ベース、模様描画、省工程、光触媒トップコートなど多くの差別化ポイントを持ち、物件オーナーや設計への説得力が高い。自ら責任施工で培ってきた技術ノ



会員によるロープレの様子

ウハウに加え、設計営業のツボを会員に伝授。岐阜の会員は「幼稚園、病院、個人邸など10件ほどの受注が次々と決まり、実益につながっている。コンクリート打ち放しという新たな領域を確立できた」と報告。

更に、この工法を応用して開発した「サイディンググラデーション工法」を今回新たに紹介した。サイディング塗り替えの単色仕上げから模様描画を駆使したデザイン仕上げへの進化。G-PFシステムと同様の技法を用いるものの「需要の裾野が広く、立ち上がりはむしろこちらの方が早いかも」など、参加者は早速受注へのイメージをつかんだ様子。

ピアレックス社は今回の会議で一般施主向け、設計士向けの新たなカタログを披露した。一般施主向けは「ARAU・MAMORU・TUTUMU（洗う・守る・包む）」といった分かりやすいメッセージとブティックサイズの体裁が親しみを感じさせる。また白い家や打ち放しをビジュアルに見せる設計受けを狙ったカタログも用意。会員の受注増に向けたアシストに力強さが出てきた。当面、全国50社をめどに会員を募っていく。